

(社) 日本鑄造工学 生型の高精度化研究部会

第05回部会 議事録

日時 : 2007年4月13日(金) 13:00~16:30

場所 : 株式会社 アイメタルテクノロジー 土浦地区 土浦素形材工場

出席者: 阪口(前部会長) 金森(前部会長: 金森メタル) 片島(広大名誉教授) 村川(三重県科技振興センター) 前田(海上保安大) 高森(物質材料研究機構) 松村・土井(ツチヨシ・マテック) 垣地(コマツ) 松川(福島製鋼) 佐藤(アイメタルテクノロジー) 内園(豊田自動織機) 上林(ツチヨシ産業) 鈴木(旭テック) 宮崎(コヤマ) 加藤(アイシン高丘) 片岡(ボルクレイ) 橋本(幹事: 新東工業) 以上18名(順不同, 敬称略)

【部会議事】

1. 事務報告

1) 委員名簿における社名変更(自動車鑄物 → アイメタルテクノロジー)が紹介された。

2. アイメタルテクノロジー殿土浦地区 土浦素形材工場見学

古里工場長にご挨拶をいただいた後、佐藤委員より素形材工場の概要説明が行なわれた。その後、FCD専用生産ラインであるAMS・KDMの2ラインの稼動状況をはじめとして詳細な工場見学が行なわれた。AMS用砂処理は、アジテーター型混練機(アイリッヒ)2トン/バッチ×90秒混練、KDM用は、ローラー型混練機(キングミル)3トン/バッチ×260秒混練が行なわれている。技能伝承では、伝承委員会が形成され、伝承者を決めてマンツーマンでの教育が行なわれる。一定水準に達したら伝承認定書が発行されるというシステムが構築されている。

3. AZ91合金の鑄肌に及ぼす砂と塗型の影響 (A-05-14)

物質・材料研究機構 高森委員

マグネシウム合金において、鑄物としての価値を高めるためには鑄物内部(組織微細化)のみならず鑄はだが良好であることが必要となる。AZ91合金を用いて、鑄型骨材(珪砂・クロマイトサンド・オリビンサンド)の鑄肌に及ぼす影響、および塗型種類(珪砂を用いた鑄型に黒鉛・ボロンナイトライド・ジルコンフラワーの各塗型を塗布)の鑄肌に及ぼす影響についての実験結果について報告があった。

4. 材料戦略委員会テーマ追加募集について (A-05-15)

新東工業 橋本委員

鑄造工学会としてオブザーバー参加(鑄造工学会担当: 岩手大 平塚先生)している材料戦略委員会より、第3期科学技術基本計画分野別戦略に提示される重要研究開発課題および戦略重点科学技術に関してテーマの追加募集があったことが本部からの資料に基づき報告された。各委員において検討いただき何らかの提案があれば、追加募集に応募することとした。尚、生型研究部会としては、H17年度に鑄造設備研究部会と共同で「砂型法による鑄鉄鑄造品のインテグレート評価システムの構築」(資料添付)というテーマを提案している。

5. 産業技術総合研究所中部センターについて (A-05-16)

産総研 阪口委員

産業技術総合研究所中部センターパンフレットに基づき、中部センターの概要および中部センターに設けられている中部産学官連携センターの役割についての紹介が行なわれた。

以上